

# 小売業 54 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

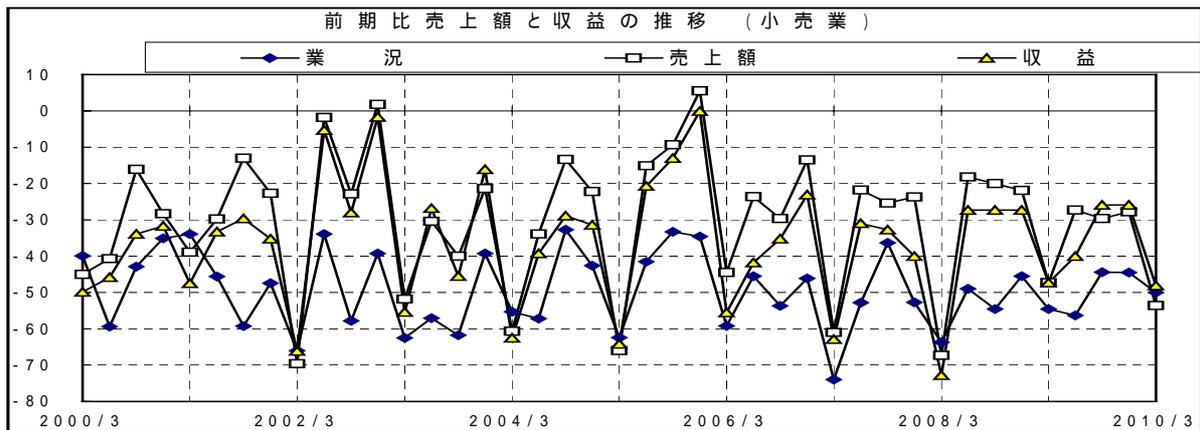
## 景況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業況	-44.4	-44.5	-50.0	-50.0
売上額	-29.6	-27.8	-53.6	-27.7
収益	-25.9	-25.9	-48.1	-24.0

今期の業況判断DI値は 50.0 と、前期比悪化しマイナス値が 5.5 ポイント拡大した。地区別にみると、浦河、えりも地区が改善し、様似地区が横ばい、静内、三石、広尾地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 53.6、収益が 48.1 と、前期比それぞれマイナス値

が拡大し 25.8、22.2 ポイント低下した。

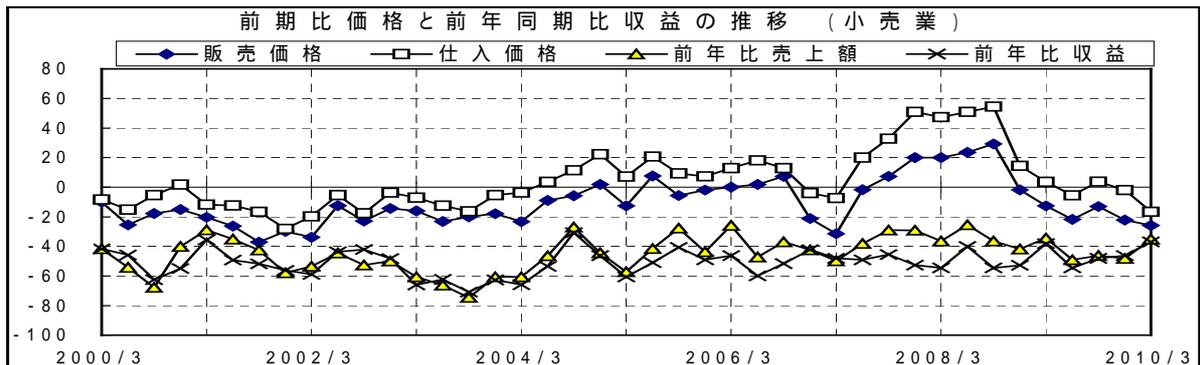


## 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	-13.0	-22.2	-25.9	-18.5
仕入価格	3.7	-1.9	-16.6	-7.4

販売価格判断DI値( 25.9)、仕入価格判断DI値( 16.6)は、前期比それぞれマイナス値が拡大し 3.7、14.7 ポイント低下、価格低下基調を強めている。業種別にみると、衣料品が販売価格で横ばい、仕入価格で上昇、食料品が販売、仕入価格ともに低下、家電品が販売、仕入

格ともに上昇している。



## 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-7.4	-12.9	-20.4	-20.4
人手状況	1.8	-1.9	13.0	3.7

残業時間判断DI値は 20.4 と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比 7.5 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 13.0 と、前期比マイナスからプラス値に転じ 14.9 ポイント上

昇、人手過剰感を強めている。

## 設備投資の動き

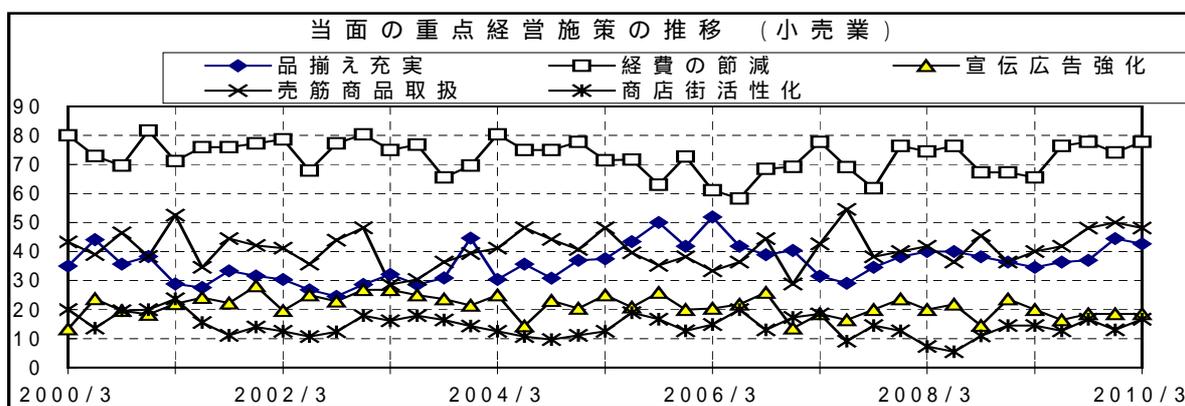
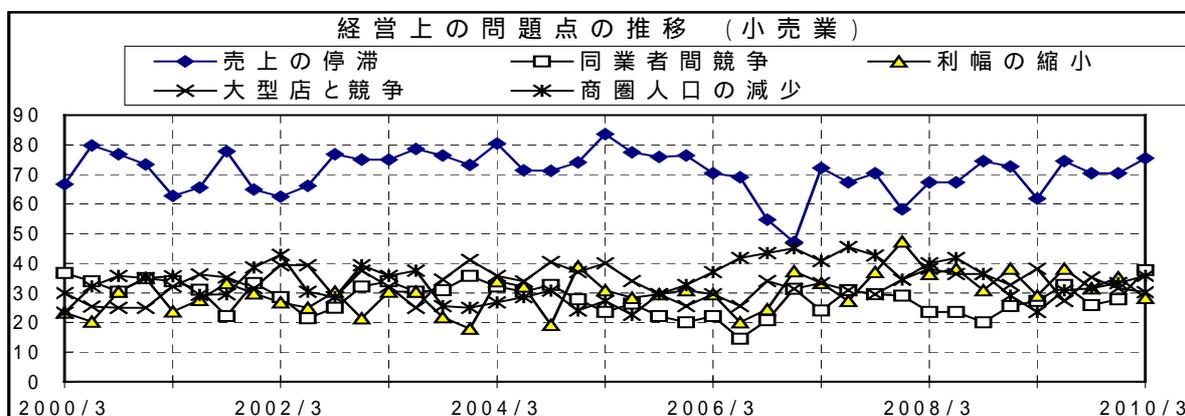
設備投資の充足感を示すD I値は 3.7 と、前期( 7.5) からマイナス値が縮小し 3.8 ポイント上昇、不足感を弱める一方、適正と回答した企業は 77.7%と、前期(77.7%)と変わらず同じ割合となった。

設備投資実施企業割合は 9.3%と、前期(1.9%)比 7.4 ポイント上昇、件数で前期の 1 社に対し 5 社の実施となった。また、来期予定では当期比 1 社増の 6 社となっている。

## 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 75.5%、次いで「同業者間との競合」37.7%、「商圏人口の減少」35.8%、「大型店との競合」30.2%の順に続き、前期との比較では「同業者間との競合」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、衣料品が「商圏人口の減少」、食料品が「売上の停滞」、家電品が「大型店との競合」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 77.8%、次いで「売れ筋商品取扱」48.1%、「品揃えの充実」42.6%、「宣伝広告の強化」18.5%の順となっている。業種別にみると、衣料品が「品揃えの充実」、食料品、家電品が「経費の節減」をトップに挙げている。



## 来期の見通し

来期(平成 22 年 4~6 月期)の予想業況判断 D I 値は 50.0 と、今期( 50.0)実績比横ばい見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断 D I 値は、売上額が 27.7(今期 53.6)、収益が 24.0(今期 48.1)と、今期実績比それぞれマイナス値が縮小し 25.9、24.1 ポイント上昇見通しとなっている。

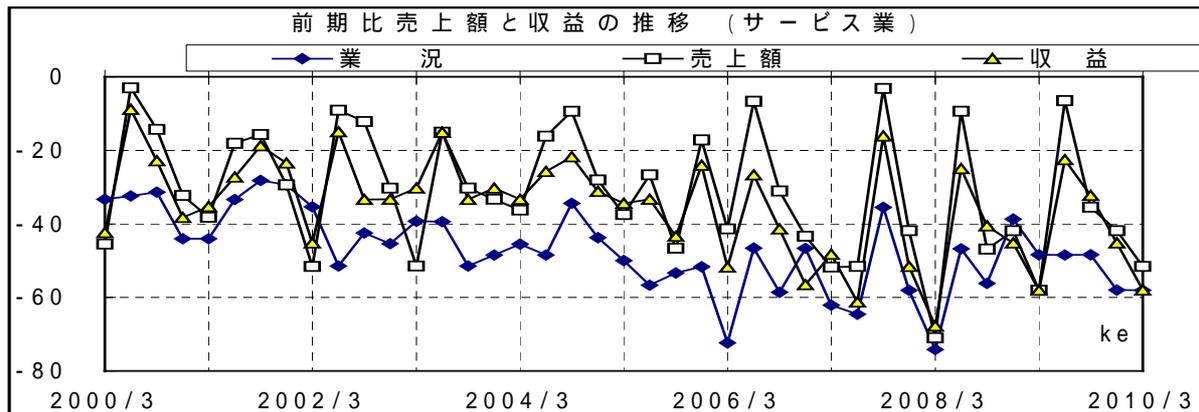
予想販売、予想仕入価格判断 D I 値は、販売価格が 18.5(今期 25.9)、仕入価格が 7.4(今期 16.6)と、今期実績比それぞれマイナス値が縮小し 7.4、9.2 ポイント上昇、価格低下基調が弱まる見通しとなっている。

## サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

### 概 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-48.4	-58.0	-58.1	-64.5
売上額	-35.5	-41.9	-51.6	-12.9
収 益	-32.3	-45.2	-58.0	-16.1

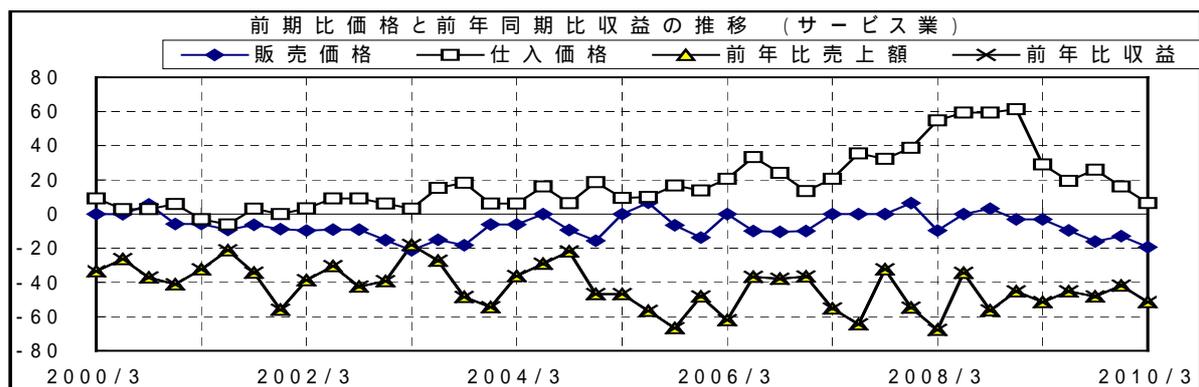
今期の業況判断DI値は 58.1 と、前期比 0.1ポイント極僅か低下した。地区別にみると、静内、広尾地区が改善し、三石、えりも地区が横ばい、浦河、様似地区で悪化している。  
売上額、収益判断DI値は、売上額が 51.6、収益が 58.0 と、前期比それぞれマイナス値が拡大し 9.7、12.8ポイント低下した。



### 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
料金価格	-16.1	-12.9	-19.3	-22.6
材料価格	25.9	16.1	6.4	6.4

料金価格判断DI値( 19.3)は、前期比マイナス値が拡大し 6.4ポイント低下、価格低下基調を強めている。材料価格判断DI値(6.4)は、前期比プラス値が縮小し 9.7ポイント低下、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、旅館が料金で横ばい、材料で上昇、洗濯・理美容が料金、材料ともに低下、自動車整備が料金で横ばい、材料で低下している。



### 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-12.9	-25.8	-3.2	-9.7
人手状況	9.6	-3.2	0.0	-6.4

残業時間判断DI値は 3.2 と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比 22.6ポイント上昇した。  
人手過不足判断DI値は 0.0 と、前期比マイナスからゼロ値に転じ 3.2ポイント上昇、過不足感が均衡している。

### 設備投資の動き

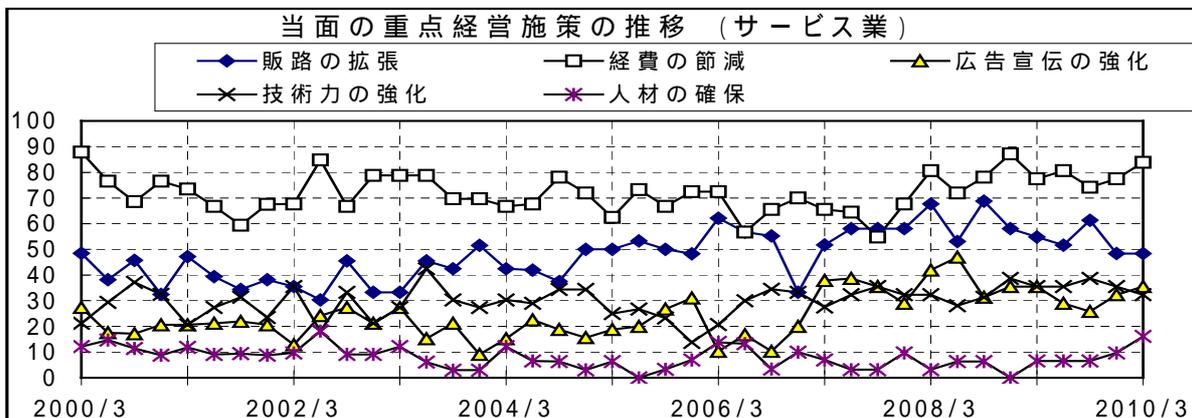
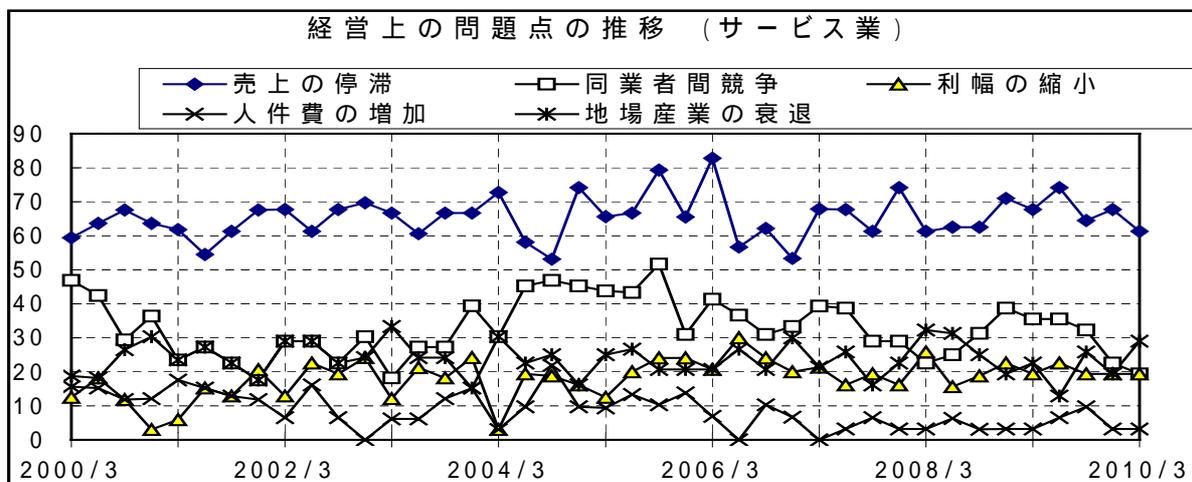
設備投資の充足感を示すDI値は 19.4 と、前期( 22.6) からマイナス値が縮小し 3.2 ポイント上昇、不足感を弱める一方、適正と回答した企業は 74.2%と、前期(71.0%) から 3.2 ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は 9.7%と、前期( 12.9%) 比 3.2 ポイント低下、件数で前期の 4 社に対し 3 社の実施となった。また、来期予定では当期比 1 社減の 2 社となっている。

### 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 61.3%、次いで「商圏人口の減少」45.2%、「地場産業の衰退」29.0%、「取引先の減少」25.8%の順に続き、前期との比較では「地場産業の衰退」、「取引先の減少」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、旅館が「商圏人口の減少」、洗濯・理美容、自動車整備が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 83.9%、次いで「販路を広げる」48.4%、「宣伝広告の強化」35.5%、「技術力を強化する」32.3%の順となっている。業種別にみると、旅館、洗濯・理美容、自動車整備ともに「経費の節減」をトップに挙げている。



### 来期の見通し

来期(平成 22 年 4~6 月期)の予想業況判断DI値は 64.5 と、今期( 58.1)実績比 6.4 ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断DI値は、売上額が 12.9(今期 51.6)、収益が 16.1(今期 58.0)と、今期実績比それぞれマイナス値が縮小し 38.7、41.9 ポイント上昇見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断DI値は、料金価格が 22.6(今期 19.3)と、今期実績比マイナス値が拡大し 3.3 ポイント低下、価格低下基調が強まる一方、材料価格は 6.4(今期 6.4)と、今期実績比横ばいの上昇基調見通しとなっている。